
【翻訳】アンビバレント・エイジズム尺度の日本へのローカライズ 【TRANSLATION】 LOCALIZING THE AMBIVALENT AGEISM SCALE FOR JAPAN

※本稿は、次のプロシーディングの翻訳版である。Sawa Y., & Seaborn K. (2022) Localizing the Ambivalent Ageism Scale for Japan. The Asian Conference on Aging & Gerontology 2022: Official Conference Proceedings. ISSN: 2432-4183.
<https://doi.org/10.22492/issn.2432-4183.2022.4>^{*}

澤 祐斗, シーボーン ケイティ[§]
アスパイア・ラボ
東京工業大学
東京・日本
seaborn.k.aa@m.titech.ac.jp

抄録

エイジズム（年齢差別）は、ポジティブなステレオタイプ（例：理想的な祖父母）とネガティブなステレオタイプ（例：能力の低下が著しい高齢者）の両方を含む複雑な偏見です。さまざまな形態のエイジズムを測定するためにいくつかのスケールが開発されてきましたが、そのほとんどは英語で書かれ、西洋文化的な文脈に沿っています。その例外がフラボニスケール（FSA）で、これは1970年に開発され、2004年に日本語に翻訳されて以来、多くのエイジズム研究で使用されています。しかし、FSAはエイジズムの敵対的な表現に基づいており、エイジズムの善意性と敵対性の両面に注目するうえでは不十分である可能性があります。新しいスケールとして2017年に開発されたアンビバレントエイジズムスケール（AAS）は、エイジズムの善意的および敵対的な側面の両方を取り入れています。しかし、AASの日本語翻訳はまだ存在していません。そこで、私たちは2人の日本語ネイティブスピーカーと1人の英語ネイティブスピーカー（いずれも他方の言語に堪能な人）と共にAASを翻訳しました。その後、オンライン調査を日本の成人を対象に実施し、エコロジカルに有効なアンケートでAAS-JPを評価しました。AAS-JPの因子構造と内部整合性を検証し、元の英語版AASと一致していることを確認しました。我々の結果を報告するとともに、異なる言語や文化的文脈で開発された研究ツールをローカライズする際の課題について議論します。

キーワード： エイジズム（年齢差別）・認知バイアス・高齢者・オンライン調査・アンケート・ローカライズ、翻訳・アンケートの検証

^{*}翻訳の正確性に関するスクリーニングを行わずに、プレプリントサーバで翻訳作品を公開する許可。We have received permission to publish this Translated Work on preprint servers without screening for translation accuracy.

[†]参照：IAFOR User License

[‡]責任著者 (Corresponding author) : seaborn.k.aa@m.titech.ac.jp

[§]翻訳補助：小島未宇。翻訳の責任は著者にあり、その忠実性を確認しました。

1 はじめに

エイジズムは、特定の年齢層に対する限られた見解や偏見に基づく否定的な態度の一種です。この研究では、高齢者に焦点を当てました。エイジズムは、たとえば高齢者は助けを求めている、または必要としているといった想定や、高齢者は基本的に能力が限定されているという憶測のように、ポジティブに発現する場合もあればネガティブに発現する場合があります。今日の高齢化社会において、高齢者に関連する研究でこれらの態度を定量的に測定することは重要です。よく知られた態度測定ツールの一つに、フラボーニスケール (FSA; Fraboni et al., 1990) があります。FSA は 1970 年に開発されて以来、多くのエイジズム研究で使用されてきました。2004 年に日本語に翻訳され、検証されて以来、日本でのエイジズム研究に広く使用されています (Yoshida et al., 2017)。しかし、このスケールは主にエイジズムの最もネガティブな側面を反映しています。Cary et al. (2016) はアンビバレントエイジズムスケール (AAS) を開発しました。このスケールは、善意的なエイジズムに含まれる高齢者の能力を見くびる態度などを測定し、エイジズム態度の善意的および敵対的な側面の両方を捉えています。しかし、まだ日本で検証された翻訳版は存在しません。したがって、私たちは元の AAS を日本語に翻訳し、その検証に向けた第一歩を踏み出しました。

2 研究方法

私たちはオンライン調査を用いて、AAS の日本語版を翻訳し、パイロットテストを実施しました。以下にその手順を説明します。

2.1 翻訳方法

まず、Tsang et al. (2017) によって、以下の手順で AAS の項目を翻訳しました。まず、英語を理解する日本語ネイティブスピーカー 2 名と、多少日本語を理解する英語ネイティブスピーカー 1 名で翻訳チームを結成しました。日本人翻訳者のうち一人はエイジズムの概念を理解しており、もう一人は特に詳しくありませんでした。次に、英語で書かれたオリジナルの AAS 項目を日本語に翻訳しました。これは、エイジズムの概念を理解している日本人翻訳者と英語ネイティブスピーカーが行いました。次に、翻訳された日本語の項目を英語に逆翻訳して、項目の意味が正しいことを確認しました。これは、エイジズムの概念に詳しくない日本人翻訳者と英語ネイティブスピーカーが行いました。最後に、意味が理解できるかどうかを評価するため、日本語話者 (n=5) を対象に実験室でパイロットテストを行いました。これらの手順を経て、翻訳版の AAS が完成し、より大規模なテストの準備が整いました。オリジナルと同様に、翻訳版の AAS (AAS-JP と呼びます) は全部で 13 項目あり、そのうち 9 項目が善意的項目、4 項目が敵対的項目です。すべての項目は 7 段階のリッカート尺度で評価され、逆項目はありません。

2.2 データ収集とサンプル

AAS-JP を含むオンライン調査は、SurveyMonkey プラットフォームを通じて日本国内の日本語話者に配信されました。合計 47 件の有効回答が収集され、内訳は女性 19 名、男性 27 名 (他の性別はなし)、年齢は 18 歳から 74 歳でした。

2.3 統計分析

私たちの評価は、信頼性と妥当性に焦点を当てました。信頼性については、各サブスケールの内部整合性を確認するためクロンバックのアルファ係数を計算しました。これは 0 から 1 の間の値で、1 に近いほど、そのサブスケール内の項目間の相関が高いことを示します。一般的に、アルファ値が 0.7 を超えると、そのスケールが有意に信頼できることを示します (Tavakol and Dennick, 2011)。妥当性については、元の AAS 研究で使用された手順に基づいて、FSA との相関係数を計算しました。元の AAS 研究と同様に、FSA は敵対的概念 (嫌悪、

回避、中傷など)を反映しているため、AASの善意的サブスケールよりも敵対的サブスケールとの相関が強いと仮定しました。

3 結果

両方のサブスケールが高い信頼性を持っていることがわかりました。善意的サブスケールではアルファ値が0.83、敵対的サブスケールでは0.77でした。妥当性に関しては、表1に示されているように、すべてのスケールが強く相関しており、特にFSAとAASの敵対的サブスケールの相関が強いことがわかりました。したがって、FSAとAAS-JPが高い関連性を持つスケールであるという仮説を受け入れることができます。実際、AAS-JPは元のAASと同様の態度現象を捉えているようです。

表1: FSAとAAS-JPの相関

Scales	<i>r</i>	<i>p</i>
AAS-JPの敵対的サブスケールと善意的サブスケール	.477	<.001
FSAとAAS-JPの敵対的サブスケール	.704	<.001
FSAとAAS-JPの善意的サブスケール	.516	<.001

4 おわりに

オリジナルのAASスケールを日本語に翻訳し、翻訳版のAASをFSAを用いて検証することで、日本におけるAASの日本語版の妥当性を示しました。善意的サブスケールと敵対的サブスケールの両方が高い信頼性を示し、また、敵対的サブスケールがFSAと強く相関していることから、善意的サブスケールと敵対的サブスケールの両面の構成概念の妥当性も支持されました。今後は、より大規模なサンプルでこれらの結果を検証する予定です。

謝辞

本研究は、日本学術振興会(JSPS)の若手研究者育成支援(科研費若手研究)#21K18005の助成を受けました。また、翻訳支援をしてくださった柏原睦美氏に感謝いたします。最後に、本稿のChatGPTおよびDeepLベースの翻訳をチェックしてくださった小島未宇に感謝いたします。

参考文献

- Cary, L. A., Chasteen, A. L., and Remedios, J. (2016). The Ambivalent Ageism Scale: Developing and validating a scale to measure benevolent and hostile ageism. *The Gerontologist*, page gnw118.
- Fraboni, M., Saltstone, R., and Hughes, S. (1990). The Fraboni Scale of Ageism (FSA): An attempt at a more precise measure of ageism. *Canadian Journal on Aging / La Revue canadienne du vieillissement*, 9(1):56–66.
- Tavakol, M. and Dennick, R. (2011). Making sense of Cronbach's alpha. *International Journal of Medical Education*, 2:53–55.
- Tsang, S., Royse, C., and Terkawi, A. (2017). Guidelines for developing, translating, and validating a questionnaire in perioperative and pain medicine. *Saudi Journal of Anaesthesia*, 11(5):80.
- Yoshida, K., Tsuji, M., Harada, F., Oyama, Y., Takeshima, J., and Miyahara, H. (2017). Research on ageism in nursing students. *Health Science Research*, 30:39–46.